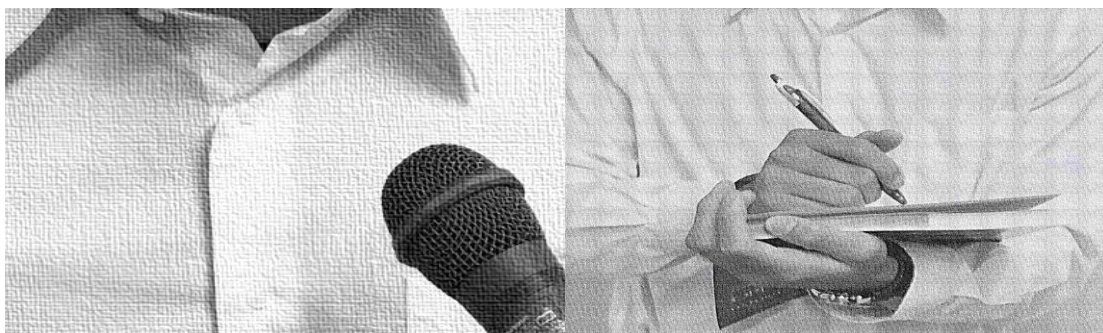


日本語教育を学んで No.1

—橋本ゼミ修了生・卒業生へのインタビュー—



インタビューについて

本稿では、横浜国立大学の橋本ゆかり教授のゼミ卒業生と修了生にインタビューした内容を紹介していく。今回は、2名のゼミ生にお話を伺った。1人目は、修士課程在学中から橋本ゼミに所属し、現在は博士課程の学生として同ゼミで研究を続けている今村桜子さん、そして2人目は学部生の時に橋本ゼミに所属していた寺田哲久さんである。お二人には、下記の5つの項目に関して話してもらった。

インタビュー項目

1. 日本語教育を始めたきっかけ
2. 橋本ゼミでの思い出
3. 橋本ゼミで学んだことと今の仕事の関係（活きているところ）
4. 橋本ゼミに入ってよかったこと
5. 橋本ゼミをお考えの方々へ一言

今村桜子さんのプロフィール

私は3人家族の主婦で、夫と息子がおります。私立大学や日本語学校の非常勤講師、一般企業での技術実習生への日本語指導等の日本語教育の経験があります。地域日本語教室でのボランティアもしています。修士課程の時に橋本ゼミに入り、今は博士課程の学生として橋本ゼミに所属しております。

1. 日本語教育を始めたきっかけ

Q. 日本語教育を始めたきっかけを教えてください

高校生ぐらいの時から、国際交流に興味がありました。といっても、欧米に憧れるというより、日本文化を紹介したいという気持ちを抱いていました。それで大学生の時に日本語教育について勉強し、ボランティアの地域日本語教室にも参加し始めました。

Q. 大学卒業後のことについて教えてください

大学卒業後も日本語教育を続けようと思い、ボランティアの地域日本語教室だけではなく、民間の日本語学校で非常勤講師として教え始めたのですが、その学校がすぐに閉校してしまいました。並行して個人レッスン等もやっていたのですが、独身で一人暮らしをしていく経済的余裕がなく、親も心配したので、一旦日本語教師は辞めて別の仕事に就きました。でも、その後も地域日本語教室には関わっていました。

Q. 日本語教師として再出発したときのことを教えてください

結婚後、2000年に主人の仕事で1年弱アメリカのインディアナ州に滞在しました。そこで地域の英語教室の先生にお世話になったことから、私も日本で同じように外国の人に接したいと思い始めたんです。それでもう一度日本語教育の勉強をし直し、検定試験にも合格しました。しかし、その矢先に子どもを授かったのが、実際に日本語教師に復帰したのは子どもが2歳になった頃からです。その時は、地域日本語教室の代表の方から一般企業での日本語研修の仕事を紹介していただき、そこで教え始めました。それが結婚後の最初に就いた日本語教師の仕事でした。そこでの仕事はとても良かったのですが、その後リーマンシ

ョックの影響を受けて、担当授業数が減ってしまいました。子どもを保育園に通わせ続けるには仕事を増やさなければならなかったのが、日本語学校でも教え始めました。

Q. 横浜国立大学大学院に入ろうと思ったきっかけを教えてください

(独身時代から結婚後も)長く関わっていた地域日本語教室が、人手不足の中で、指導法を変えたりして工夫したのですが、学習者さんも減ってしまい、結果的に解散してしまいました。その頃から、「良い支援」とは何かについて考え始めました。自分の中で明確な答えが出ず、課題として残っていました。また、子どもが小学校からもらってくるお便り文書を見た時に、これを外国人保護者が読むのは大変だろうなと思いました。実際に上級クラスの読解問題として使用してみた際も、参加者(学習者)があまり理解できていませんでした。それから、学校お便り文書を集め、分析して、教え方をまとめたいと考えていました。しかし、1人では考えているだけで一歩も進まず、大学院に行って教えを乞わないと無理だなと思いました。それが大学院に進学しようと思った動機です。また、その頃に横浜国立大学大学院の日本語教育領域の修了生である知り合いから話を聞いたことがきっかけで、横浜国立大学大学院を受験しよう

思いました。受験時期としては、子どもが中学校1・2年生の間に修士課程で勉強するのが一番子育てに影響が少ないと思い挑戦しました。

2. 橋本ゼミでの思い出

Q. ゼミでの橋本先生のご指導について教えてください

橋本先生は、まず研究内容を先行研究、目的課題、方法、結果を表にまとめるように指示されます。そして学生の発表を聞いて、研究目的や方法などについて質問していきます。そこで計画が曖昧だと学生は答えられないわけですが、橋本先生やゼミ生とのやり取りの中で、自分の思考が整理されていきます。自問自答では解決できていなかったことをゼミの場で整えていく感じですが、また、橋本先生は、学生同士のやり取りの場をくださいます。学生はお互いの発表を聞き、学年を超えて質問したり助言したりするのですが、その時の雰囲気は優しく楽しいのも良いと思います。批判し合う場はありません。橋本先生がそういった場を作り出してくださるのが、ありがたいと思います。また、橋本先生は「どうしてそう思うの」とか「何を明らかにしたいの」と問いかけて下さるので、それは学生が始めに持っていた素朴な疑問や動機を大切にしてくださっているということだと思います。そして先生の問いかけは、学生が研究を掘り下げていく手がかりとなりま

す。良い研究になるように育ててください。

Q. その他の思い出を教えてください

ゼミでは、自分の発表の時は毎回緊張していました（笑）。でも、毎回とても勉強になり、様々なことに気づかせてもらいました。発表するたびに、頭の中が整理され、パーッと道が開ける感じが必ずあったのを覚えています。「こうやって研究をまとめていこう」という方針が自分の中で明確になり、発表するたびに整っていく感じがありました。論文をどの視点から書いていくかが明確になりました。

3. ゼミで学んだことと今の仕事の関係

学生の様子を見ていると、日本語習得は一直線に進むわけではなく、ストレスからか途中で宿題をしなくなったり、分からなくなったり、伸び悩んでいるように見えることもありますね。でも言語習得理論や異文化体験をする人の習得傾向や心理面に関する理論を学んだことで、学生をあせらず客観的に見守ることができるようになった気がします。また、学生の学習態度を良い・悪いといった観点で判断するのではなく、よくその学生を観察し、背景にある原因まで考えるようになったと思います。

4. 橋本ゼミに入ってよかったこと

まずは橋本先生にご指導いただいた内容なのですが、私は修士課程に在籍していた時、自身の研究について保護者支援の観点から捉えていました。その後、橋本先生のご指導のおかげで、問題の所在は、子どもと教師も含めた三者間にあることに気付くことができました。視野が広がったこと、また実際に小学校での放課後支援を体験したことも、橋本ゼミに入ったからこそ得られたことだと感謝しています。次に橋本ゼミ生との内容ですが、ゼミ生が持ち寄る研究課題は（習得研究や多読など）多岐にわたっているため、ゼミ発表を聞くだけでも自身の知識を深めることができましたことですね。あとは、サブゼミ等で自分の研究について話す相手がいいて、話し合う中でたくさん意見をもらって自身の研究も深めることができたこともよかったと思います。橋本ゼミのみんなで話し合っって研究を進めるスタイルは、研究するのが初めての私にとって、とてもありがたかったです。また、先輩方が自分で学会発表について調べて、応募して、発表しているのを見ていたので、自分も「ああ、そういうものなんだな」と思って、発表に応募しました。それで発表する機会を持てたことに、とても感謝しています。「それは無理だと

思うよ」などと言われるようなゼミだったら発表応募はしていなかったと思いますから。

5. 橋本ゼミをお考えの方々へ一言

入学当初は、自分が研究計画に書いたことをどう進めていけばいいのか、またどう取り組んでいけばいいのか分からないかも知れません。でも、他の方のゼミ発表を聞いたり、授業を受けたりする中で、様々な研究に触れ、理論や研究方法について広く学ぶことができます。その中で自分の研究について考えていくうちに、必ず論文が書けるようになります。このような環境で学べることはとても貴重なことだと思います。

寺田哲久さんのプロフィール

大学卒業後から横浜市で小学校教員になり、現在は4年目です。今は主に個別支援教室での指導を担当しております。また、マーチングバンドの指導にも携わっております。いろいろな方々のお力添えのおかげで、2018年から2年連続で全国大会金賞をいただきました。

1. 日本語教育を始めたきっかけ

Q. 横浜国立大学に入学しようと思った理由を教えてください。

自分の出身地である横浜、あるいはその周辺で教育を学ぶ上で一番良い環境だと思ったのが横浜国立大学だと考え、受験したのが正直なところです。あと、これは学術的ではないのですが、自宅からのアクセスのしやすさも、この大学を選んだ理由です。

Q. 教育職を目指したきっかけを教えてください。

幼稚園の時から剣道を習っており、それを部活で教えたいと思ったのが1番最初のきっかけでした。その後、中学生の時に、友達に勉強を教えるのが面白いと思いました。部活と勉強を教えることができるので、教員になろうと思いました。

Q. 初等教育を学ぼうと思ったきっかけを教えてください。

部活を教えようと思っていたので、大学に入学したときは中学校の先生になるつもりでした。大学1年生の時から塾講師のアルバイトをしていたのですが、教えている時に勉強への意欲を失っている中学生に何人も会いました。その時に、学生の学ぶ意欲とか習慣等に関して、小学校の時点で何かしてあげることがあるのではないかと思います。初等教育に興味を持ち始めました。また、大学2年生の時から小学校にアシスタントティーチャーの活動や教育実習等で行き始めました。そのような機会でも、実際に先生方や子供たちと関わっていく中で「小学校の先生っていいな」という思いが強くなり、確信へと変わりました。

Q. 日本語教育を専攻しようと思ったきっかけを教えてください。

私は、5教科の成績がバランスよくとれるタイプでした。しかし、少し悪い言い方をすると、特に得意な科目がない学生でした。そんなタイプだったので、「5教科以外のものを専攻しよう」と自然と考えていました。当時、国語や数学等の5教科以外の専攻は、教育基礎と特別支援教育と日本語教育の3つでした。その3つの中から1つを選ぶ際に、自分が外国につながる子どもだったということを考えると入り

やすいかなと思ったので日本語教育を選びました。また、その当時は「学校の先生じゃなくて、他の教育関係の仕事でもいいかな」みたいな考えもあり、「日本語教育を勉強すれば、教育職を選ぶときに選択肢を増やせるかな」と考えたことも別の理由ですね。

Q. 橋本ゼミを選ぼうと思ったきっかけを教えてください。

教育実習が終わった後にゼミを選んだのですが、その時にはもう小学校の先生になることを決めていました。ゼミ紹介の時に子どもの教育に関する研究ができると聞き、自分の将来に役立つことが研究できると思って橋本ゼミを選びました。

2. 橋本ゼミでの思い出

一番思い出に残っているのは、橋本ゼミ生（学部生）で行った合宿ですね。その合宿は1泊2日だったのですが、そのほとんどの時間を卒論の研究のために使いました。その1日を研究に費やして、全員がその目的のために集まって過ごすというのがとても新鮮でした。これは、橋本ゼミに所属して、合宿に行ったからこそできた体験だと思います。他に覚えていることは、研究テーマ選びに苦労したことですかね（笑）。橋本ゼミに入ったばかりの頃は、「小学生の言語習得のプロセスみたいなものを研究したいな」とい

う感じのぼんやりとした考えがあったのですが、1年じゃ終わらないなと思い、テーマを変えることにしました。その後、橋本先生にいろいろ出していたでいて、その中から多義オノマトペを選びました。他に印象に残っていることは、橋本ゼミに所属してらっしゃる院生の方々との関わりですね。院生の方々と一緒に小学校に行った時に、院生の方々と関わらせていただくことがあり、その中で「物事の見方に対する深さ」みたいなものを学びました。

3. 橋本ゼミで学んだことと今の仕事

いろいろあるんですけども、1つ目は外国につながる子どもたちのトラブルが起きた際に落ち着いて対応できることだと思います。そういったトラブルが起きた時に原因を予想することができるので、対処法の引き出しをたくさん持って落ち着いて対応することができます。2つ目は、外国につながる子どもたちに伝える何かを伝える際に配慮することができることです。こう言ったら分かりやすいかなと工夫することができるようになりました。3つ目は、日本人児童に対する異文化理解教育です。日本人学生と外国につながる子どもたちが関わる時に、日本人学生に対して「こう言ったほうがわかりやすいよ」とか「こう言ったほうが伝わるよ」みたいにアドバイスができるようになったと思

います。この3つのことは、橋本ゼミで外国につながる子どもたちの研究をさせていただいたからこそ身についたことだと思います。

4. 橋本ゼミに入ってよかったこと

一番に思い浮かぶことは、「橋本先生が真剣に教えてくれた」ということです。最初から最後まで真剣にご指導いただいたので、私自身も最初から最後まで研究に向き合うことができました。また、そのような研究と粘り強く向き合うことを通して、忍耐強さも身についたと思います。いつもゼミ発表の時に、たくさん質問をしてくださるので、こちらもこれに応えようと頑張りました。また、実地経験を積ませていただいたことにも感謝しております。私の場合は、小学校でボランティアをする機会を紹介していただきました。橋本先生は、研究指導だけではなく、ゼミ生の将来のために必要な経験を積むことにも気を配ってくださるので、本当に感謝しています。

5. 橋本ゼミをお考えの方々へ一言

小学校教育、外国につながる子どもたち、子どもの教育、言語習得等に関心がある人には特におすすめのゼミだと思います。橋本先生は、真剣に学びたい学生に親身かつ真剣に答えてくれます。「何かを追究する」ということを深く学ぶことができる場です。

おわりに

本稿では、橋本ゆかり教授のゼミ修了生（今村桜子さん）と卒業生（寺田哲久さん）にインタビューした内容を紹介した。本稿が（卒業生や修了生を含む）橋本ゼミ生同士のつながりや橋本ゼミをお考えの方々向けの情報提供等の部分で役に立てば幸いである。末筆ながら、橋本ゼミの益々のご発展、及び同ゼミ生の益々のご活躍をお祈り申し上げ、筆を擱かせていただく。

執筆者：あいだたかのり（山梨大学 助教）